

ヤフーより検索

本当の国学のヲシテ文献の世界を、池田満が案内します。『ホツマツタエ ...掲載アドレス
<https://www.zb.ztv.ne.jp/woshite/>

「ヲシテ文献 大意」ヲシテ文献は原字・原文で読んでこそ！

『ホツマ ツタエ』(1~5アヤ PDF) (6アヤ~10アヤ PDF)

解説は、単なる入口での案内です。コピペの独り歩きが独走してしまうと誤解が生じます。日本ヲシテ研究所のページをご覧ください。

1アヤ(綾)[件名]

検証日 2020年2月7日

四 卒 ㊦ 卒 ㊦ 走 元 ㊦ ㊦ 田 ㊦ 卒

識別 黄色の帯部が、原文との対比を示す

ホツマツタエミハタノハツ

ホ 卒 田 ㊦ ㊦ 四 卒 开 ㊦ 卒 ㊦ ㊦

キツノナトホムシサルアヤ

1 キツのナとホムシさるアヤ

1アヤ(綾)1(3~4行)~2(2行)

㊦ ㊦ ㊦ ㊦ ㊦ ㊦ ㊦ ㊦ ㊦ ㊦ ㊦ ㊦ ㊦ ㊦

ソレワカハ ワカヒメノカミ

それ、31音のウタを特にワカと呼ぶ言葉には深い意味合いが込められています。単に若返るからワカだとも言えるのですが、その、下敷きには長い物語がベースにあります。

ワカの名前が付けられたのは、ワカヒメさんのお名前に由来していました。ワカヒメさんは、アマテルカミの実の姉なものでしたが、両親が「アメのフシ（後の厄年）」に当たったために捨て子にされたのでした。

㊦ ㊦ ㊦ ㊦ ㊦ ㊦ ㊦ ㊦ ㊦ ㊦ ㊦ ㊦ ㊦ ㊦

ステラレテ ヒロタソダツ

さて、ワカヒメは捨て子にされます。そして、カナサキのヲキナが拾い子として、ヒロタ及びニシトノに育てます。ヒロタは、現在の兵庫県西宮市大社町の広田神社に所縁を定められます。また、当時には大きな入江になっていて入江の入り口にニシトノも建てられました。此処は、中世には摂社の浜の南の宮とされており、現在の西宮神社(兵庫県西宮市社家町)です。

㊦ ㊦ ㊦ ㊦ ㊦ ㊦ ㊦ ㊦ ㊦ ㊦ ㊦ ㊦ ㊦ ㊦

カナサキノ ツマノチオエテ

ヒロタに育てられるワカヒメさんは、カナサキの妻(エシナツ)の愛いつくしみを縦横に受ける事に成りました。エシナツさんは早世の子供に心を痛めていたので、ワカヒメに注ぐ愛情

㊦ ㊧ ㊨ ㊩ ㊪ ㊫ ㊬ ㊭ ㊮ ㊯ ㊰ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

アワウワヤ **テフチシホノメ**

1アヤ(綾)2(3行)~3(3行)【本文】

△ ㊦ ㊧ ㊨ ㊩ ㊪ ㊫ ㊬ ㊭ ㊮ ㊯ ㊰ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

ウマレヒハ **カシミケソナエ**

㊦ ㊧ ㊨ ㊩ ㊪ ㊫ ㊬ ㊭ ㊮ ㊯ ㊰ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

タチマヒヤ **ミフユカミオキ**

が大きかったからでした。**アワウワ**とあやす愛情です。**手を打ってシホの目**(パチパチ、ぱー)です。

その養育は、伝統に沿っておこなわれました。**ウマレヒ**(誕生日)には**カシミケ**です。炊かしいだミケ(穀物)の食べ初めをします。歩き初めの**タチマヒ**もします。**3歳のフユ**(冬)の至りの日(11月モチ。満月。大体15日)には、髪の毛の切り上げをおこないます、**カミオキ**です。これよりは、年中行事にも参加をします。縄文哲学の基本の行事です。

㊦ ㊧ ㊨ ㊩ ㊪ ㊫ ㊬ ㊭ ㊮ ㊯ ㊰ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

ハツヒモチ **アワノウヤマヒ**

㊦ ㊧ ㊨ ㊩ ㊪ ㊫ ㊬ ㊭ ㊮ ㊯ ㊰ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

モモニヒナ **アヤメニチマキ**

㊦ ㊧ ㊨ ㊩ ㊪ ㊫ ㊬ ㊭ ㊮ ㊯ ㊰ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

タナハタヤ **キククリイワヒ**

1アヤ(綾)3(4行)~4(1行)

㊦ ㊧ ㊨ ㊩ ㊪ ㊫ ㊬ ㊭ ㊮ ㊯ ㊰ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

キトシフユ **オハハカマキル**

㊦ ㊧ ㊨ ㊩ ㊪ ㊫ ㊬ ㊭ ㊮ ㊯ ㊰ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

メハカツキ **コトバオナオス**

1アヤ(綾)4(2行)~5(2行)【本文】

㊦ ㊧ ㊨ ㊩ ㊪ ㊫ ㊬ ㊭ ㊮ ㊯ ㊰ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

アワウタオ **ツネニオシエテ**

㊦ ㊧ ㊨ ㊩ ㊪ ㊫ ㊬ ㊭ ㊮ ㊯ ㊰ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

アカハナマ **イキヒニミウク**

㊦ ㊧ ㊨ ㊩ ㊪ ㊫ ㊬ ㊭ ㊮ ㊯ ㊰ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

フヌムエケ **ヘネメオコホノ**

㊦ ㊧ ㊨ ㊩ ㊪ ㊫ ㊬ ㊭ ㊮ ㊯ ㊰ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

モトロソヨ **ヲテレセエツル**

㊦ ㊧ ㊨ ㊩ ㊪ ㊫ ㊬ ㊭ ㊮ ㊯ ㊰ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

スユンチリ **シキタラサヤワ**

ハツヒ(元旦)は、**アワ**(天地自然)への**ウヤマヒ**(感謝と敬愛)をおこないます。3月3日は、**モモにヒナ**の祭りです。ハル(春)の終わりの季節の到来を祝います。5月5日は、**アヤメ**に**チマキ**の祭りです。さみたれ(梅雨)の、**ナツ**(夏)の盛りの到来を祝います。7月7日は、**タナハタ**の祭りです。**アキ**(秋)の到来を祝います。9月9日は、**キククリ**の**祝い**です。**アキ**(秋)の盛り到来です。

5歳のフユ(冬)の至りの11月モチ(大体15日)には、言葉の習い始めをします。(後の七五三)正装をしての行事です。**ヲ**(男の子)は**ハカマ**を着用します。**メ**(女の子)は**カツキ**(被り着)です。**コトハ**(言葉)を直す**アワウタ**を常に教えてゆきます。

会かはなまいきひにみうく
(あかはなまいきひにみうく)

ふぬむえけへねめおこほの
(ふぬむえけへねめおこほの)

もとろそよヲてれせゑつる
(もとろそよをてれせゑ ye つる)

すゆんちりしゐたらさやわ
(すゆんちりしゐ yi たらさやわ)

1アヤ(綾)5(3行)~7(2行)【本文】

㊦ ㊧ ㊨ ㊩ ㊪ ㊫ ㊬ ㊭ ㊮ ㊯ ㊰ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

アワノウタ カダガキウチテ

㊦ ㊧ ㊨ ㊩ ㊪ ㊫ ㊬ ㊭ ㊮ ㊯ ㊰ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

ヒキウタウ オノツトコエモ

㊦ ㊧ ㊨ ㊩ ㊪ ㊫ ㊬ ㊭ ㊮ ㊯ ㊰ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

アキラカニ キクラムワタオ

㊦ ㊧ ㊨ ㊩ ㊪ ㊫ ㊬ ㊭ ㊮ ㊯ ㊰ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

ネコエワケ フソヨニカヨヒ

㊦ ㊧ ㊨ ㊩ ㊪ ㊫ ㊬ ㊭ ㊮ ㊯ ㊰ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

ヨソヤコエ コレミノウチノ

㊦ ㊧ ㊨ ㊩ ㊪ ㊫ ㊬ ㊭ ㊮ ㊯ ㊰ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

メクリヨク ヤマヒアラネハ

㊦ ㊧ ㊨ ㊩ ㊪ ㊫ ㊬ ㊭ ㊮ ㊯ ㊰ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

ナカラエリ スミエノオキナ

㊦ ㊧ ㊨ ㊩ ㊪ ㊫ ㊬ ㊭ ㊮ ㊯ ㊰ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

コレオシル

1アヤ(綾)7(2行)~9(2行)【本文】

㊦ ㊧ ㊨ ㊩ ㊪ ㊫ ㊬ ㊭ ㊮ ㊯ ㊰ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

ワカヒメサトク

㊦ ㊧ ㊨ ㊩ ㊪ ㊫ ㊬ ㊭ ㊮ ㊯ ㊰ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

カナサキニ キツサネノナノ

㊦ ㊧ ㊨ ㊩ ㊪ ㊫ ㊬ ㊭ ㊮ ㊯ ㊰ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

ユエオコフ オキナノイワク

㊦ ㊧ ㊨ ㊩ ㊪ ㊫ ㊬ ㊭ ㊮ ㊯ ㊰ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

ヒノイヅル カシラハヒカシ

㊦ ㊧ ㊨ ㊩ ㊪ ㊫ ㊬ ㊭ ㊮ ㊯ ㊰ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

タケノボル ミナミルミナミ

㊦ ㊧ ㊨ ㊩ ㊪ ㊫ ㊬ ㊭ ㊮ ㊯ ㊰ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

ヒノオツル ニシハニシスム

㊦ ㊧ ㊨ ㊩ ㊪ ㊫ ㊬ ㊭ ㊮ ㊯ ㊰ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

ヨネトミヅ カマニカシクハ

㊦ ㊧ ㊨ ㊩ ㊪ ㊫ ㊬ ㊭ ㊮ ㊯ ㊰ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

ヒカシラヤ ニエハナミナミ

㊦ ㊧ ㊨ ㊩ ㊪ ㊫ ㊬ ㊭ ㊮ ㊯ ㊰ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

ニエシツム

アワノウタを、音曲に合わせて歌います。カタ(打楽器)を掻き打ち、コト(琴)を弾き奏でます。そうしますと、自ずからにコエ(声)も明らかになってきます。キ・クラ、ム・ワタ、ヲ(人体の構成の基本、心と身体元、五臓六腑とは成り立ちが違います)もネ・コエの構成から分けて明らかになります。アワノウタの24(フソヨ)に通って、ワのアワウタも合わせて全体に48(ヨソヤ)に完全になります。この為、ミ(身体)の内部からの巡りが良くなり、ヤマヒ(病)も起きなくなります。それで、長寿の達成がなされます。

スミエのヲキナ(カナサキさん)は此の原理をちゃんとご存知でした。

ワカヒメは、サトク(聡明)して、カナサキにキツサネ(東西南北)の名

の謂ゆえを問いますのでした。カナサキのヲキナは答えて教えます。

『ヒ(日)の出しづるカシラ(始め)だから、ヒ・カシと言います。長たけ昇る方角は、ミ(身体)にナミを波々と齎すので、ミ・ナミです。

ヒ(日)の落ちゆく時は、ニ(真っ赤)に燃え尽き(シハ、為し終わる)て沈みますから、ニシです。

ヨネ(米)とミツ(水)をカマ(窯・竈)に炊ぐ際にも、方角の言葉の意味はあると言えます。

初めにヒ(火)を点つけて熾 おこします。ヒ・カシラですね。ヒ・カシです。煮えてくると、ハナ(派手)に煮立って、ミ(ヨネの実)にナミ(為しむる・生じさせる)が入ってきます。

ニ(柔らかくなる)を得て、シ(為す)がツム(集まる。積む)ので、食べやすくなります。

1アヤ(綾)9(2行)~11(1行)【本文】

食①瓜②③④⑤
エカヒトタビノ
飛本⑥⑦⑧⑨ △⑩⑪⑫⑬⑭⑮
ミケハコレ フルトシフヨリ
※水⑯⑰⑱ 瓜⑲⑳㉑㉒㉓
ツキミケノ ヒトハモヨロニ
※水⑳㉑㉒ 瓜㉓㉔㉕㉖㉗
ツキムケノ ヒトハフソヨロ
凡⑳㉑㉒ ㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙
イマノヨハ タダフヨロトシ
凡水⑳㉑㉒ 飛本⑳㉑㉒㉓㉔
イキナルル ミケカサナレバ
㉕㉖㉗㉘ ㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟
ヨウヒナシ ユエニオンカミ
※水㉞㉟㉐ ㉑㉒㉓㉔㉕㉖
ツキニミケ ニガキハホナヤ

1アヤ(綾)11(2行)~13(2行)

飛①②③④ ⑤⑥⑦⑧⑨⑩
ミナミムキ アサキオウケテ
⑪⑫⑬⑭ ⑮⑯⑰⑱⑲
ナガイキノ ミヤノウシロオ
水㉑㉒㉓ ㉔㉕㉖㉗㉘㉙
キタイフ ヨルハネルユエ
水㉙㉚㉛ ㉜㉝㉞㉟㊱㊲
キタハネゾ モシヒトキタリ
㊳㊴㊵ ㊶㊷㊸㊹㊺㊻
コトワケン アワネバキタヨ
㊼㊽㊾ ㊿㋀㋁㋂㋃㋄
アフハビデ ミナミニコトオ
㋅㋆㋇ ㋈㋉㋊㋋㋌㋍㋎
ワキマエテ オチツクハニシ
㋏㋐㋑ ㋒㋓㋔㋕㋖㋗
カエルキタ ネヨリキタリテ
㋘㋙㋚
ネニカエル

アマテルカミはご長寿を実現するために、少食を実践なさって居られます。エカ【詳細は未詳】に一度のミケはこれです。昔からの食物を寿命の関連のことを考えてみます。大昔には月に二度のミケでした。それが、月に三度ミケを食するようになる頃までのヒトの寿命はモヨロ(100万年)でした。月に六度ミケを食する時代になったらヒトの寿命はフソヨロ(20万年)でした。さらに時代が降って、今の世になりましたらったのフヨロ(2万年)年だけ生き長らえるだけです。この歴史を考えますと、ミケが重なるほどにヨワイ(寿命)は短くなるようです。此の故に、ランカミ(アマテルカミ)は月に一度のミケに止とどめて居られます。また、苦いハホナ(チヨミクサ)を常食もされておいでです。

ミヤの建築について考えてみましょう。ミ・ナミ(南)に向きで建てられるのは、最も良いナミの享受を得るためです。ア・サキ(天空からの及ぼされるキ(エネルギー))を充分に得て長生きを実現できます。ミヤの後ろをキタと言う言葉の意味は、夜には寝るからキタはネと言います。例えて言えば、若しもヒト(他人)が訪ねて来たとしましょう。そして来意を告げましても、それが、どうであるかですね。会うべき意義のない場合は、会うべきではありません。その場合は、キタ(来た)だけの事です。しかし、会うことになったら、日の出と同じになります。ヒ・カシラのヒ・カシです。会って話を進めますと、ミにナミを受けて事が弁わきまえゆきます。話が落ち着くのはニシです。赤く煮え定まるニ・シです。そして、キタに帰ってゆきます。ネより来たりて、ネに帰ります。此処にも、方角の順番の意味が備わっています。

1アヤ(綾)13(2行)~15(3行)

木の 田 卒 田 卒
キハハルワカバ
 田 卒 田 卒 卒 田 卒 田 卒 卒
ナツアオバ 卒 田 卒 田 卒 卒 田 卒 卒
アキニエモミチ
 田 卒 田 卒 卒 田 卒 田 卒 卒 田 卒 卒
フユオチバ 田 卒 田 卒 卒 田 卒 田 卒 卒
コレモオナシク
 卒 田 卒 田 卒 卒 田 卒 卒 田 卒 卒
ネハキタニ 卒 田 卒 田 卒 卒 田 卒 卒
キザスヒガシヤ
 卒 田 卒 田 卒 卒 田 卒 卒 田 卒 卒
サニサカエ 卒 田 卒 田 卒 卒 田 卒 卒
ツハニシツクル
 卒 田 卒 田 卒 卒 田 卒 卒 田 卒 卒
ヲハキ ミノ 卒 田 卒 田 卒 卒 田 卒 卒
クニヲサムレハ
 卒 田 卒 田 卒 卒 田 卒 卒 田 卒 卒
キツオサネ 卒 田 卒 田 卒 卒 田 卒 卒
ヨモトナカナ
 卒 田 卒 田 卒 卒 田 卒 卒 田 卒 卒
キハヒガシ 卒 田 卒 田 卒 卒 田 卒 卒
ハナハモミナミ
 卒 田 卒 田 卒 卒 田 卒 卒 田 卒 卒
コノミニシ 卒 田 卒 田 卒 卒 田 卒 卒
ミオワケオフル
 卒 田 卒 田 卒 卒 田 卒 卒 田 卒 卒
キノミュエ 卒 田 卒 田 卒 卒 田 卒 卒
キミハオメカミリ

1アヤ(綾)15(4行)~19(1行)

田 卒 田 卒 卒 田 卒 卒 田 卒 卒
シカルノチ 卒 田 卒 田 卒 卒 田 卒 卒
イサワノミヤニ
 卒 田 卒 田 卒 卒 田 卒 卒 田 卒 卒
ハベルトキ 卒 田 卒 田 卒 卒 田 卒 卒
キシキノイナダ
 卒 田 卒 田 卒 卒 田 卒 卒 田 卒 卒
ホオムシニ 卒 田 卒 田 卒 卒 田 卒 卒
イタムオナゲキ
 卒 田 卒 田 卒 卒 田 卒 卒 田 卒 卒
アルカタチ 卒 田 卒 田 卒 卒 田 卒 卒
ツグルイサワノ
 卒 田 卒 田 卒 卒 田 卒 卒 田 卒 卒
オランカミ 卒 田 卒 田 卒 卒 田 卒 卒
アマノマナキニ
 卒 田 卒 田 卒 卒 田 卒 卒 田 卒 卒
ミュキアト 卒 田 卒 田 卒 卒 田 卒 卒
タミノナゲキニ
 卒 田 卒 田 卒 卒 田 卒 卒 田 卒 卒
ムカツヒメ 卒 田 卒 田 卒 卒 田 卒 卒
イソギキシイニ

またさらに、天地自然の季節の移り変わりにも、方角の意義は備わっています。木はハル(春)には若葉で彩られます。ナツ(夏)は青葉です。アキ(秋)はニエ(赤く燃えた)モミチ(紅葉)です。フユ(冬)は落ち葉になります。此処にも同じ意味が含まれています。ネ(根っ子、根底)はキタに充実が図られます。キ・サス(兆し)のヒ・カシの若葉です。サのサカエ(栄え)の青葉です。ツのニ・シ(赤く為す)ツクル(尽きる)の紅葉になる循環です。

そして、ヲ(ヲ・中央)とは、キミ(キとミ、東と西、ヲカミとメカミ)がクニをヲサム(教え導く)事から、キツヲサネの中央に位置しているのです。つまり、キツサネ(東西南北)と、ヲ(ヲ・中央)は、ヨモ(四方)とナカ(中央)の関係とも言えます。キ(ヲカミ)はヒ・カシ(ヒ・カシラ、兆し)です。ハナ(花)もハ(葉)もミ・ナミ(身体にナミ)です。木この実みはニ・シ(煮にえて為し尽くす)です。ミ(実)を別けてオフル(生じる)キ(ヲカミ)のミ(メカミ)でありますので、キミはヲ・メカミと言う訳です。カミとは、かみ(カミ)でして、繋がり齎し・生じさせるの意味です』

さてさて、ウタの事につきまして、ワカと名付けられた謂いわれを説明しましょう。

今の御代の、ことです。(8代アマカミのアマテルカミの時代)イサワのミヤにワカヒメが侍はべっていた時に、キシキ(和歌山)のイナダ(稲田)がホラムシ(イナゴ)に害された事がありました。キシキの人は窮状をイサワのヲランカミ(アマテルカミ)に訴えに来ました。折しもその時はアマテルカミはアマのマナキにミュキ(御幸)にお出かけなさった後でご不在でした。イサワに遷都の後にも、マナキにミュキをなさってトヨケカミをお慕いなさって居られたのですね。アマテルカミのご不在を強く嘆くキシキの人々でした。そこで、正皇后のムカツヒメは代理としてキシキに急ぎ

キキヒラキ タノキニタチテ

オシクサニ アフダワカヒメ

ウタヨミテ ハラヒタマエハ

ムシサルオ ムカツヒメヨリ

コノウタオ ミソメオマテニ

タツマセ オノオトモニ

ウタハシム イナムシハラフ

1アヤ(綾)19(2行)~21(4行)

ワカノマジナイ

タネハタネ ウムスギサカメ

マメスメラノソロハモハメソ

ムシモミナシム

クリカエシ ミモムソウタビ

トヨマセバ ムシトビサリテ

ニシノウミ ザラリムシサリ

エオハラヒ ヤハリワカヤギ

ヨミカエル ソロニミノリテ

ヌバタマノ ヨノカテオウル

赴おもむかれ行啓されました。ワカヒメも同行します。キシキ(和歌山)の田のキ(東)に立たれてオシクサ(ホ9-42、31-53、32-39)にはヲに作る。教えの元)に扇ぐワカヒメでした。つまりワカヒメはウタをお詠みになりまして、ウタを以って扇ぎ払うと、ムシは去って行きますのでした。そこで、ムカツヒメはこのウタを以って大々的に虫払いをしようと、企画なさいました。30人の女性を左右に佇たたずませてそれぞれ各々も共に歌わしめます。イナムシ(稲虫)を払うワカのマジナイ(生じさせる・為す・成る・心を尽くす)です。

タネはたね ウムスギサカメ
マメスメラノソロハモハメソ
ムシモミナシム

「た(田、エネルギーの根底、治世の源)」の根底(ネ)をハタル(強引に 貪る)事はしないで下さい。生むス(為す)、「キ(東)」は榮える「メ(目・要・芽)」です。「マ」の「メ(目・要)」を、ス(為す)「メラノ(なさしめられる)、ソロ(水田の作物、畑の作物)のハ(葉)もハメソ(食べるな!)。ムシ(害虫)よ、あなたもミ(稲の実、いねもみ)を成さしめる為に心を使いなさいよ」

繰り返し360回朗唱したら、ムシはサラリとニシ(西)のウミ(海)に飛び去っていきました。エ(災い)は此処に払うことが出来ました。ワカヒメの試みの通りに、イネは若やぎを取り戻しました。蘇ったイネです。又ハタマの真つ暗の希望のない時から、一転して明るく、ソロ(ソロ)に突って世の糧を得たのでした。尊き恵みです、タカラです。

回 祭 甲 ① 虫 由 奥 田 凡 ① 虫 虫

オンタカラ ヨロコビカエス

1アヤ(綾)22(1行)~23(3行)

水 开 舟 虫 舟 ① 凡 田 虫 虫 舟 虫

キシキクニ アヒノマエミヤ

甲 虫 舟 舟 虫 舟 虫 虫 虫 虫 虫 虫 虫 虫

タマツミヤ ツクレハヤスム

① 凡 舟 虫 舟 虫 虫 虫 虫 虫 虫 虫 虫

アヒミヤオ クニカケトナス

虫 ① 凡 舟 虫 田 田 虫 虫 虫 虫 虫 虫

ワカヒメノ ココロオトム

甲 虫 舟 舟 虫 虫 虫 虫 虫 虫 虫 虫

タマツミヤ カレタルイネノ

虫 ① 虫 虫 虫 虫 虫 虫 虫 虫 虫 虫 虫

ワカカエル ワカノウタヨリ

虫 ① 田 虫 舟

ワカノクニ

1アヤ(綾)23(4行)~26(4行)

甲 虫 舟 田 虫 舟 虫 ①

タマツノヲシガ

① 舟 凡 田 虫 舟 虫 虫 虫 虫 虫 虫 虫 虫

アチヒコオ ミレバコガルル

虫 ① 凡 舟 虫 虫 虫 虫 虫 虫 虫 虫 虫 虫

ワカヒメノ ワカノウタヨミ

虫 虫 舟 舟 虫 虫 虫 虫 虫 虫 虫 虫 虫 虫

ウタミソメ オモイカネテゾ

虫 虫 虫 虫 虫 虫 虫 虫 虫 虫 虫 虫 虫 虫

ススルムオ ツイトリミレバ

水 开 凡 田 舟 舟 虫 虫 虫 虫 虫 虫 虫 虫

キシイコソ ツマオミキワニ

田 虫 田 虫 虫 虫 虫 虫 虫 虫 虫 虫 虫 虫

コトノネノ トコニワキミオ

虫 舟 舟 田 舟 舟 舟 虫

マツゾコキシキ

田 虫 虫 虫 虫 虫 虫 虫 虫 虫 虫 虫 虫 虫

オモエラク ハシカケナクテ

オンタカラのキシキの国民は、喜んで感謝を表すためにアヒミヤの前に追加して、アヒノマエミヤを建てました。ムカツヒメへの感謝の現れです。さらに、西の景勝地の海辺にタマツミヤを建てました、ワカヒメへの感謝を表すためです。ワカヒメは、気に入ってタマツミヤに逗留するようになります。(現在の、玉津島神社、和歌山市和歌浦中)とても素晴らしい景勝の地です。また、アヒミヤをクニカケのミヤとして呼ぶようになります。(日前国懸神宮、和歌山市秋月)

それは、ワカヒメの枯れそうになったイネを若返らせた、ウタの功績から特に尊んだことでした。本来の人々を守るべきの元々のアヒミヤはあんまり役に立たなかったからでした。それで、クニカケです。クニカケのミヤ(元のアヒミヤ)の前にアヒノマエミヤが建てられて、ムカツヒメへの感謝が表された訳けです。

さて、タマツのミヤにワカヒメが逗留していますうちに、兄のアマテルカミから使者が使わされて来ました。使者のアチヒコと言う人物は、コヨミを新たに作成し直したり天文学や数学にも明るい立派なヒトでした。さらに、イサワのミヤの造営を成し遂げたりと、本当に仕事の出来る人でした。余りにも忙しかったアチヒコさん、また、ワカヒメも結構な多忙の内に暮らしていました。その二人が、タマツミヤで安寧の一時ひとときを得ましたのでした。ワカヒメはウタを読んでかねてからの思いを伝えました。

きしいこそ つまおみきわに ことのねの ところにわきみお まつそこゐしき

(きしいこそ つまおみきわに ことのねの ところにわきみお まつそこゐしき)

「キシイこそ ツマ(妻)お(を) みきわ(身際)にコト(琴)のネ(音)のトコ(所)にワキミお(を) まつそ(待つぞ)こいしき(こゐ、恋しき)」

本☆△☆☆ 田夷①返②※単

ムスブヤワ コレカエサント

①返△来② 田単田④田△来

カエラネハ コトノハナクテ

々下④々返 田下①返②※単

マチタマエ ノチカエサント

田下①返△ 下①々下凡④△

モチカエリ タカマニイタリ

田夷△単△ ①田下凡④△

モロニトフ カナザキイワク

1アヤ(綾)27(14行)~30(4行)

田田△下② ①返田単田△△

コノウタハ カエコトナラヌ

々②△△下 下夷田下△下田

マハリウタ フレモミュキノ

△来△②△ ①下④下开△△

フネニアリ カゼハゲシクテ

田下④△田 △下①返②下単

ナミタツオ ウチカエサジト

々②△△下△

マハリウタヨム

田①下△田 単田田来△△田

ナガキヨノ トオノネフリノ

下田来②来 田下田△△来田

ミナメサメ ナミノリフネノ

田単田△下①田

オトノヨキカナ

アチヒコは返歌をすぐに返し得ませんでして、ミヤコのイサワ(志摩市伊雑)の宮中に戻ります。どう返答していいものか？

アチヒコは、イサワに滞在する人々に聞いてみるのです。カナサキさんは言います。

『このウタは、拒否する事の出来ない、マワリウタです。それは返答の出来ない、自己完結の完璧なウタなのです。』

むかし、わたくしも、キミ(アマテルカミのミュキノ?)のお供で、船に乗っていた時のことでした。風が激しくて大波が立っていました。この分では、港に無事に着くことが出来るかどうか？

危ういところです。そこで、ウタを詠みました。マワリウタです。

なかきよの とおのねふりの みなめさめ なみのりふねの おとのよきかな

(なかきよの とおのねふりの みなめさめ なみのりふねの おとのよきかな)

(ひとつ気になりますのが「なかきよの」の「なか」の意味が「長い」を指すならば、「なが」になるようで、それなら末尾の「かな」も「がな」で良さそうですが、どちらの「か」も清音で記されています。「なかきよの」の清音で意味を考えますと、「なかきよ」の「とお」を、中々に良き世の来ることを「ト」のヲシテの理念の普及で「ネ(根底)」からの「フリ(振興)」を図れます、皆(国民すべて)が目覚める事です、波乗りフネ(船)の音も良き事ですね。)

① ㊦ ㊧ ㊨ ㊩ ㊪ ㊫ ㊬ ㊭ ㊮ ㊯ ㊰ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿
 トウタエバ **カゼヤミフネハ**
 ㊦ ㊧ ㊨ ㊩ ㊪ ㊫ ㊬ ㊭ ㊮ ㊯ ㊰ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿
ココロヨク **アワニツクナリ**
 ㊦ ㊧ ㊨ ㊩ ㊪ ㊫ ㊬ ㊭ ㊮ ㊯ ㊰ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿
ワカヒメノ **ウタモミヤビオ**
 ㊦ ㊧ ㊨ ㊩ ㊪ ㊫ ㊬ ㊭ ㊮ ㊯ ㊰ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿
カエサジト **モフセハキミノ**
 ㊦ ㊧ ㊨ ㊩ ㊪ ㊫ ㊬ ㊭ ㊮ ㊯ ㊰ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿
ミコトノリ **カナサキガフネ**
 ㊦ ㊧ ㊨ ㊩ ㊪ ㊫ ㊬ ㊭ ㊮ ㊯ ㊰ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿
ノリウケテ **メオトナルナリ**
 ㊦ ㊧ ㊨ ㊩ ㊪ ㊫ ㊬ ㊭ ㊮ ㊯ ㊰ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿
ヤスカワノ **シタテルヒメト**
 ㊦ ㊧ ㊨ ㊩ ㊪ ㊫ ㊬ ㊭ ㊮ ㊯ ㊰ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿
アメハレテ

「なかきよの」のマワリウタを詠みまして歌いますと、程もなく、**風は止やみ、フネは快く進むことが出来、無事にアワ(四国の阿波か?)に着きました。**

マワリウタには、強い力が備わっているのだと思います。ワカヒメのウタも、ワマワリウタで、打ち返す事は難しいのではありませんか？

ワカヒメのミヤヒの心を返すこともないのではありませんか？』

ワカヒメさんの育ての親でもあるカナサキさんの勧めでした。さらに、**アマテルカミも、薦めて**おっしゃいます。

『**カナサキが、フネノリを受けて、メヲ(夫婦)となるのが**よろしいでしょう』

そうして、アチヒコとワカヒメは結ばれまして、ワカヒメは**ヤスカワのシタテルヒメ**の称号を得ました。ラブレターのウタでした。思い兼ねてのアチヒコさんでして、皆がみんなオモイカネと呼ぶのでした。ヤスカワの辺ほとりにオモイカネとシタテルヒメのミヤを設けます。

今の滋賀県野洲市には比留田の地名もあり、比利田神社も『延喜式』に記載されています。

1アヤ(綾)30(4行)~32(3行)

㊦ ㊧ ㊨ ㊩ ㊪ ㊫ ㊬ ㊭ ㊮ ㊯ ㊰ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿
ソノオシクサハ
 ㊦ ㊧ ㊨ ㊩ ㊪ ㊫ ㊬ ㊭ ㊮ ㊯ ㊰ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿
ヌバタマノ **ハナハホノホノ**
 ㊦ ㊧ ㊨ ㊩ ㊪ ㊫ ㊬ ㊭ ㊮ ㊯ ㊰ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿
カラスバノ **アカキハヒノデ**
 ㊦ ㊧ ㊨ ㊩ ㊪ ㊫ ㊬ ㊭ ㊮ ㊯ ㊰ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿
ヒアフギノ **イタモテツクル**
 ㊦ ㊧ ㊨ ㊩ ㊪ ㊫ ㊬ ㊭ ㊮ ㊯ ㊰ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿
アフギシテ **クニモリオサム**
 ㊦ ㊧ ㊨ ㊩ ㊪ ㊫ ㊬ ㊭ ㊮ ㊯ ㊰ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿
ヲシエクサ **カラスアフギハ**
 ㊦ ㊧ ㊨ ㊩ ㊪ ㊫ ㊬ ㊭ ㊮ ㊯ ㊰ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿
ソフハナリ **ヒアフキノハハ**

シタテルヒメの**オシクサ**(ホ9-42、31-53、32-39)にはヲに作る。教えの元)の事を詳しく説明します。

ヌハタマのミ(実)を成らせる**ヒアフギ**(カラスアフギ、アヤメの一種)に例えたりしてます。真っ黒のヌハタマの実は、夜の例えです。それが、盛夏のミナツキ(旧暦6月)には**真っ赤な花**が咲きます。**ホノホ(炎)**のようなハナです。**カラス**のような真っ黒な実をハ(生じさせる)のは、**赤き明るい日の出**のハナでした。ヒ・アフギ(ヒオウギのアヤメ)の平らな形を扇に象かたどって、国家経営の基礎を**教えるヲしゑくさ**(ヲシエクサ)を作りました。

12体のそれぞれに、**32**扇を取り付けて、下部には**ヒアフギ**のアヤメを**4**株付けます。カラス・アフギの**12**体です。

飛田④②△ ①多田再中各打
ミナハラフ **アワノヨソヤゾ**
 中甲所中△ 飛那田多△夷母
マタミソフ **ミチナワスレソ**
 ④田ホ来の 典田非卒卒△
ハナキネハ **キナニツツルオ**
 ①来非中△ ①来田④甲△の
アネニトフ **アネノコタエハ**

①多田△开 中甲中△④②△
アワノフシ **マタトフハラヒ**
 所中△田典 凡中甲所中甲の
ミソフナリ **イマミソヒトハ**
 ④田△开夷 ②来田来△典田
コノヲシエ **アメノメクリノ**
 飛各中典夷 再卒飛卒多来兼
ミムソキエ **ヨツミツワケテ**
 飛中甲田典 卒ホの④△夷兼
ミソヒナリ **ツキハオクレテ**
 所中甲△夷 中田中甲所中打
ミソタラズ **マコトミソヒゾ**
 开①夷中母 ①中母ホ①①典
シカレトモ **アトサキカカリ**
 所中△①母 ①来母△①①△
ミソフカモ **アルマウカガフ**
 ④夷母田④ ④②△の△甲田
オエモノオ **ハラウハウタノ**
 田夷①母△ 开ホ开中田夷非
コエアマル **シキシマノエニ**
 風中△母夷 所中甲①非①△
ヒトウマレ **ミソヒカニカス**

32は、365日の12分の一の30.4日を切り上げて31日として、さらに魔物の入り込む隙を埋めるために、余分の一日を足した32の数字です。ヒアフギの4株は、12体の全部を足しますと48の言葉の音韻の数に相当します。48は天地自然の根 拠を表しています。

イサナさんの亡き後、ハナキネ(後のソサノヲ)は、ワカヒメさんの許で教育を受けていました。

そこで、若いハナキネは5・7音の綴り方の謂われを質問しました。

ワカヒメの答えは次のようでした。

『5・7音に綴つづるのは、アワのフシだからです。つまり寒い時期の5ヶ月のネの季節と、温かな7ヶ月の満ち満ちた季節を表現しているのが、天地自然の恵みの内に暮らすヒトとしての基本の備わりだからです』

また、さらに若いハナキネは、ハラヒ(魔物の払い)の32の意味を質問します。姉で母親代わりのワカヒメさんは教えて答えます。

『ハラヒはミソフ(32)なのです。何故ならば、31に一日を足したもののなのです。31日は、一年の365日を12ヶ月で割った30.4を、切り上げて纏めた数字です。しかし、ツキ(月)の巡りは30日にも足りませぬ。ツキは重くて巡りが遅くなるためです。ヒ(日)の巡りからしましたら、31日をひと月と考えるのが妥当なところですよ。31日に後先半日ずつヒ(日)を足して32日にしたら、隙間なくピシッと嵌はまり込んで魔物の入る隙が無くなります。アルマ(隙間が有る)を伺うのがヲエモノです、魔物ですね。このヲエモノを払う力のあるのが声(音韻)の一音余っての32音のウタなのです。

ヒトとはシキシマ(為す来る締り)の会う所に生まれてくるものです。微妙な偶然の合わせりの所とも言えますでしょうか。

天地自然の巡りのヒ(日)とツキ(月)の循環の31日がそもそもにカス(来る為す)リズムです。

㊦の㊦㊦㊦ △㊦㊦㊦㊦㊦㊦

メハミソフ

ウタノカズモテ

㊦㊦㊦㊦㊦

㊦㊦㊦㊦㊦㊦㊦㊦

ワニコタフ

コレシキシマノ

㊦㊦㊦㊦㊦㊦

ワカノミチカナ

ですので、メは間は32に來ます。それで32の字余らせウタはヲエモノ(魔物)払いの効力があるのです。ウタのカス(來る為す)の力はワ(地球上のあらゆる物)に應こたえるものなのです。此の故にシキシマ(為す來る締り)に因って為す(の)ワカノミチなのです』